

配付資料

(1) 基調講演レジュメ(須田 寛氏)

「国土形成計画の策定にむけて」 — 中部のめざすべき方向 —

須田 寛

済的な力を持っている地域である。この地域からいろいろなことを始めないと、日本全国が全くダメになってしまうという話を伺って、ほくも全くそうだと思います。

今のヨーロッパ、パリとかロンドンが非常に落ち着いた、微動だにしない街を作れたのも、やはり当時一番力を持っていたからそういうことができた。神尾さんが言われた規制も、貧しい所ではそれができないわけですね。非常に強くなったこの地域で、特に万博の教訓もあることから、新しいモデルができるのではないかというのは、全くそのとおりだという感じがしました。

それから、外国人労働者の話が須田先生と伊藤先生から出ました。全く私も同感です。日本も貧しい頃はブラジルに移民し、満州やモンゴルまで行ったのですが、自分が豊かになったら今度はブラジルの人や中国の人も来るという、なぜか受け入れる側になかなか同化しようとしません。自分が貧しいときに世話になった国から今、来ているわけですね。こちらの方が豊かになったものだから来るわけです。そういう歴史的経緯を忘れてしまって、外国人の居住者に対するこの国独特のアレルギーがある。やはり、これを除かないと少子高齢化の時代は絶対乗り切れないし、国際都市と言うのですけれども、私の体験では本当の国際都市はニューヨーク、ロンドン、パリです。自分の家の隣に違う国の人が住んでいる、その隣がまた違う国の人で、町内会をやるとミニオリンピックができるくらいいろいろな国の人間が住んでいる都市を国際都市というのであって、東京は隣の人はほとんど日本人ですから、国際色豊かな都市ではあっても決して国際都市ではないと私は思っています。

この地域は、モノづくりで働く外国人がこれから増えると思うのですけれども、そういう人たちと同じ町内を作れるようになったら見事なものです。そういう幅の広さを持ったら、中部は日本屈指の地域になるのではないかという感じがします。

様々なご意見が出ました。様々な先生方のご意見の一つでも皆さんのご記憶に残ればそれで十分かと思います。長時間にわたってありがとうございました。

1. 国土形成計画の策定(平成20年頃までに)

○「開発計画」から「形成計画」へ — [更新]
(開発型から成熟社会型に)

○国と地方の協働による計画づくり — [対流]
(全国計画と地方ブロック計画)

— 安心安全な国土、ゆたかでゆとりある国土づくり —

2. これからの中部(日本まんなか)

○その「方向」
21世紀日本発展の原点
(万国博の成果、立地条件)

○その「展開」

①安全健康な国土づくり	←→	環境産業・環境交流
②競争力ある生産拠点圏づくり		社会資本整備
③国際交流拠点圏づくり		産業観光の推進

○その「留意点」
①選択と集中(重点化)
②幅広い連携(広域化)

「国土マインド」「ものづくりの心」「観光する心」
— 万博の心を中部にいつまでも —